

▶ 第8章

# アジア・ゼロエミッション共同体の展望 ——脱炭素時代のエネルギー安保の課題

日本経済新聞社 上級論説委員兼編集委員

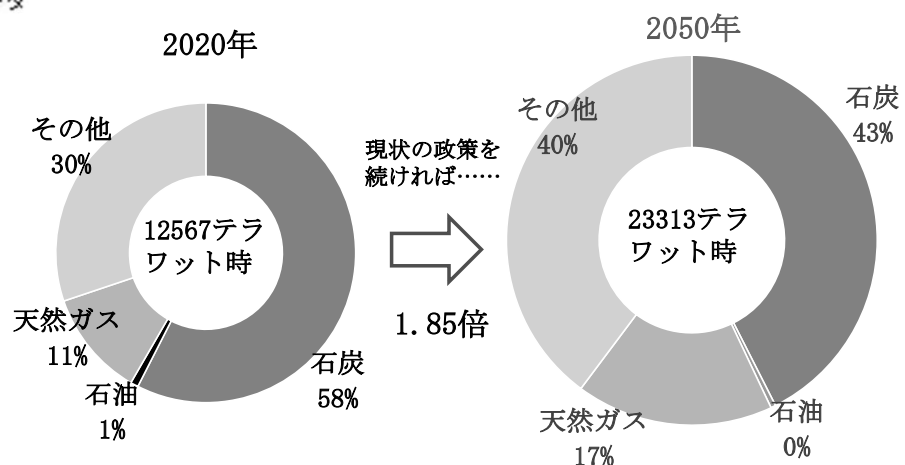
松尾 博文

【ポイント】

- ▶ 世界の温暖化ガス排出量の過半を占めるアジアの脱炭素は、世界の気候変動対策のかぎを握る。しかし、アジアでは発電に占める化石燃料の比率が高く、エネルギー需要は今後も増加が見込まれる。成長と脱炭素を両立する取り組みが欠かせない。
- ▶ 日本政府が着手したアジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）構想は、日本の技術や資金を活用してアジアのエネルギー転換を促す。広域連携による温暖化ガスの排出削減や日本の産業競争力向上に加え、脱炭素時代の経済・エネルギー安全保障を構築する狙いを込める。
- ▶ AZECは石炭火力発電所でのアンモニア混焼などの手段により、化石燃料を使い続けながら温暖化ガスを段階的に削減する。これに対し、欧米は金融的手法を活用して石炭火力の運転終了の前倒しを志向する。日本型アプローチをめぐる欧米との温度差が今後の対立点となる可能性がある。



アジアの電源構成の現状と見通し



出所：日本エネルギー経済研究所「IEEJ Outlook 2023」のレファレンスシナリオ